

仙台市文化財パンフレット第四集

仙台市の古建築II (明治以降)



伊達屋敷全景



文化財愛護シンボルマーク



日歩兵第四連隊兵舎玄関

昭和55年3月 仙台市教育委員会

緒 言

以前には仙台市内にも数多くの明治期に建造された洋風建築が存在した。しかし、その多くは戦災により焼失し、また幸いにして戦後まで残存した建築物でも、建物そのものの老朽化、そして使用機能の低下により次々に取りこわされ、現存するのは数えるほどになってしまっている。このことは今日残っている建築物が病院・学校など公建築が多いことから、機能面が重視されるためいたしかたない面もあるかもしれない。

今回の小冊子は、前回の「仙台の古建築Ⅰ」(昭和54年3月発行)に次いで仙台市教育委員会社会教育課文化財係が編集・発行したものである。前回は藩政時代までの仙台市内の主要古建築に焦点を合せたのに対し、今回は明治以後、特に明治期の洋風建築を中心に藩政時代の遺構ともいべき明治期に造営された華族邸宅(武家屋敷の形態を有す)、及び大正期以後の建築物のうちでも特に貴重と思われるものをピックアップして掲載した。

本冊子が文化財の保護思想の啓蒙に役立てば幸いである。主要な建築(明治以降)の所在地リストを巻末に「主要古建築一覧表」としてまとめたので参考にされたい。

なお本冊子の作成にあたり次の機関の方々に御協力をいただいた、

東北大学・東北学院大学・尚絅女学院・聖ウルスラ学院・(株)東北電力三居沢発電所・東六番丁教会・二十人町教会・宮城学院・宮城県・仙台市歴史民俗資料館

関係者に心から御礼申し上げる次第である。

また、執筆にあたっては主に文化財係主事 渡辺洋一 が担当し、同主事 山口宏 がこれを補佐した。

旧歩兵第四連隊兵舎

(現仙台市歴史民俗資料館)

五輪一丁目3-7

仙台市指定有形文化財 昭和53.6.16指定



兵舎全景(現状)

宮城県最古の洋風建築。明治7年造営の兵舎建築で、前年の明治6年造営の名古屋歩兵第六連隊兵舎^①と類似点が多いことから当時の兵舎建築の基準によるものと考えられる。



兵舎全景(取毀前)

終戦後は米軍がここに駐留したり、東北管区警察学校として使用されて来た^②が、昭和52年2月に、現在仙台市歴史民俗資料館として使用されている第十一中隊兵舎を除いて取毀された。

現存の第十一中隊兵舎の構造は、瓦葺寄棟造りの屋根を有する木造二階建てで、外装は、漆喰大壁塗^④の外壁に建物の角隅にコーナーストン^⑤を配す。窓には硝子入



玄関ポーチ及び外装

りの上下窓が使用され、また表裏二ヶ所ずつ計四ヶ所の出入口にはエンタシスの洋風円柱が使用されている。



コーナーストン

内部は折々の使用目的その他により大部分がそのつど改造されてはいるが、出入口を入るとすぐエンタシスの洋風円柱・雲形の彫刻の手摺を有する階段等に兵舎当初の面影を残す。また、仙台市歴史民俗資料館として使用されている今日、二階の一室には、兵舎として使用されていた当時の姿が一部復元されている。

なお、この土台には仙台北の礎石が使用されたという説もあるが明らかではない。

昭和53年6月16日付で仙台市指定有形文化財となっている。

<註>

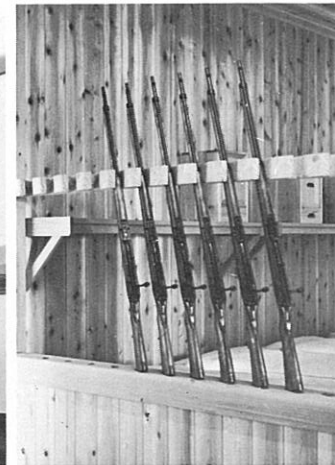
- ①兵舎の一部が明治村に移築され現存する。
- ②建築当初から終戦までの約60年間は旧日本陸軍が、終戦から昭和31年まではアメリカ



内部(階段)



内部(階段手摺彫刻)



内部(兵営銃装)

駐留軍が、その後昭和50年までは東北管区警察学校がそれぞれ使用した。

③現存の兵舎の軒瓦には、解体された連隊本部棟に葺かれていた菊の御紋章入りの軒瓦が葺かれている。なお、昭和53年に仙台市歴史民俗資料館として復元される以前の兵舎の軒瓦にはこの瓦ではなく無紋の軒瓦が使用されていた。造営当初からそうであったかどうかについては不明である。

④漆喰は、石灰にふのり・粘土等をねり合せたものである。

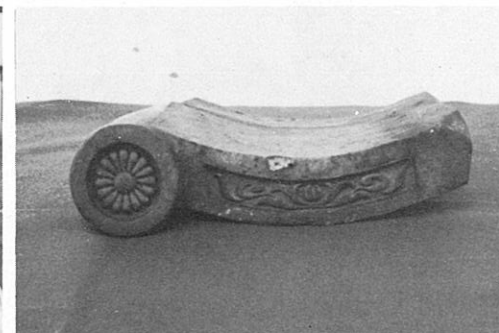
⑤建物の隅に据える角石で、装飾的な意味を有す。なお、建築当初は本当にコーナーストンを使用したのではなく、コーナーストンを擬して角隅を黒く塗っていたものともいわれ、その後の改築によりなくなっていたものを、現在のように復元したものである。

⑥柱の中ほどにふくらみをもたせたもので、古代ギリシャ・ローマ、及びルネサンス式の建築様式にみられる。

⑦菊地和平著『榴ヶ岡史考』による。なお、この本にはほかに請負施工は横浜の貿易商高島嘉右衛門・棟梁は島崎安五郎とある。



内部(兵営ベット)



菊の御紋章入りの軒瓦

シップル館

(旧デフォルト館)

土樋一丁目3-1
(東北学院大学構内)



全景(側面)



全景(正面)

明治21年建造といわれる洋風住宅建築。明治19年、東華女学校創立時に英語・天文・地質学の教師として来仙したアメリカ人宣教師J・H・デフォルトの住宅として建てられ、後にシップル神父が居住したことからこの名がある。

建物の構造は、煉瓦積み基礎を有するスレート葺寄棟造の木造二階建てで、外壁はベ



玄関



ベランダ

ンキ塗りの下見板張で、南面にベランダを設けている。内部は天井・壁とも漆喰塗りで、板張の床に、上下窓と引違窓がある。

なお、ポーチ上の破風板の彫刻などに和風様が見られるのは建造時に日本人大工が参与したことを示している。

一部改装はされているものの、全体的にはよく当初の姿をとどめており、明治時代建築の現存する数少ないアメリカ風住宅として貴重な存在となっている。



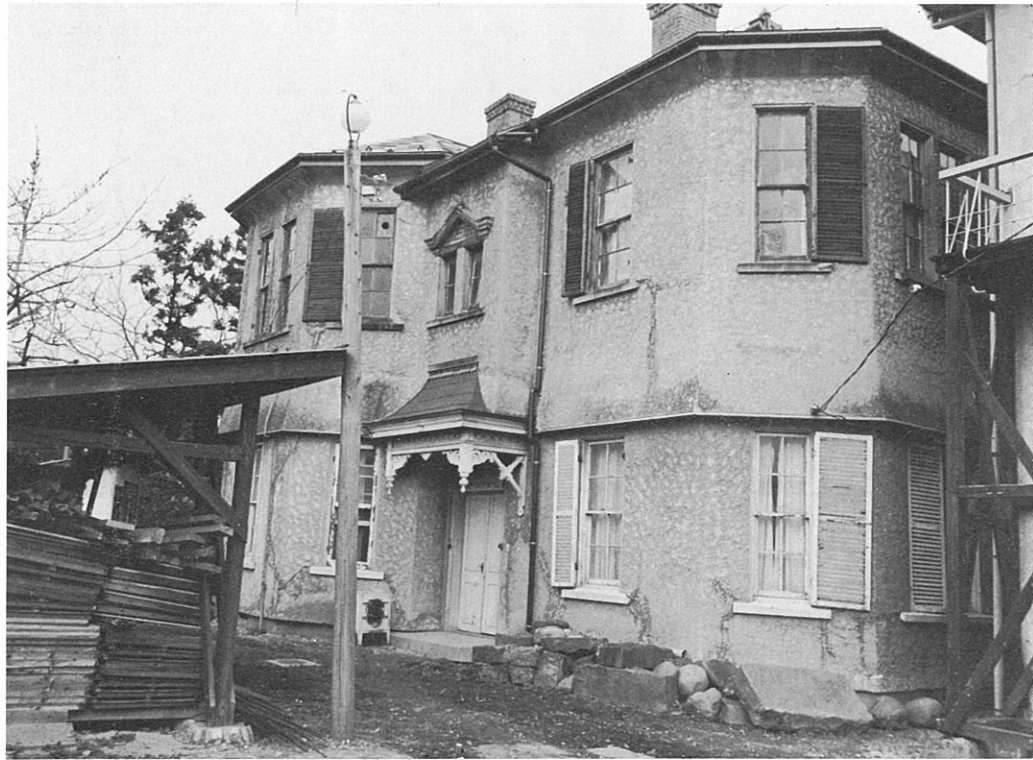
内部(階段及び2階)



内部(1階)

エラ・O・パトリックホーム

広瀬町 9 - 1
(尚綱女学院構内)



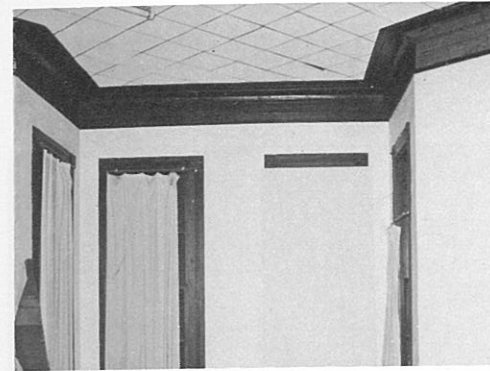
全 景



ベランダ及び錠戸

キリスト教主義の学校として設立された尚綱女学校の校舎（教室兼教師住宅）として明治29年に建造されたもので、建築資金を提供したエラ・O・パトリックを記念してこの名が付いた。

建物の構造は瓦葺木造二階建て、外観は大体方形であるが玄関わきに六角形を半切りにした形の突き出た室があるのと、二階のバルコニーの切妻屋根の下に折尺形の装飾が付く所に特徴がある。外壁は当初下見板張であったが、現在はモルタル塗となっており、窓は上下窓が主でよらいど錠戸が付く。内部は一・二階とも四室からなり、壁は土



内 部

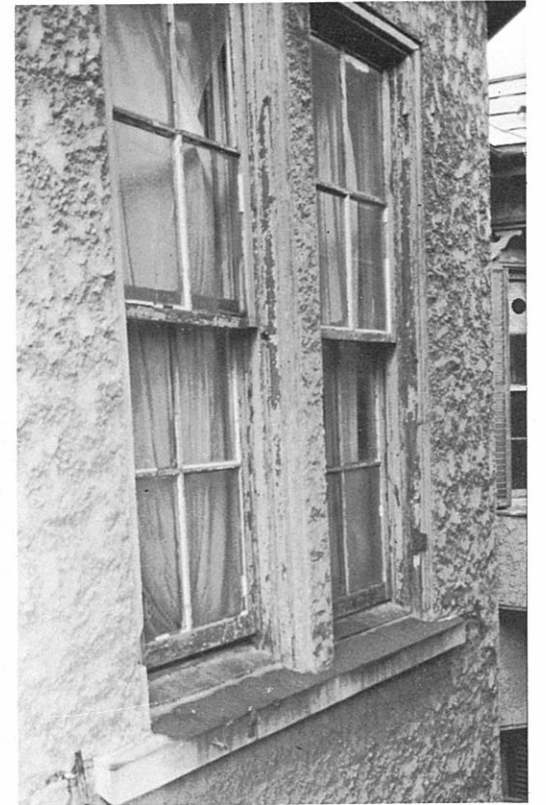
内 部



壁の上に漆喰を塗り、床は板張である。

外国人の設計ではあるが、日本人大工が施工したため洋風といえども細部には和様風が見られる所にシップル館同様興味を引かれる。

現存する明治期の数少ない住宅風洋館として貴重な存在である。



上下窓

内部(階段)



内部(階段手摺装飾)



内部(暖炉)



三居沢発電所

荒巻字三居沢



全景

明治15年に設立された宮城紡績会社の附属施設として明治27年に出来た水力発電所^①で、現存の施設は明治41年から翌42年にかけて改修されたものである^②。

建物の構造は木造平屋建、屋根は寄棟造で、もとはスレート及び石綿板葺であったが現在はトタン板葺で、その上に越屋根をのせ採光・通風を計っている。外壁はペンキ塗りの下見板張で、上部がアーチ形の上下窓が付く。中央の玄関にはペデント屋根がかけられ、柱には三本のフルーティングが彫られている。内部は太い柱が西洋小屋組のクインポスト・トラス（対梁組）を受け、コンクリート床の中央に30KWの発電機が設けられている。



落水管取入口

昭和37年に周囲がコンクリートの塀でしきられ、建物の下部を見ることが出来なくなったが、この建物の右側に一部残存している旧発電所の煉瓦造の落水管取入口は現在でも望むことが出来る。

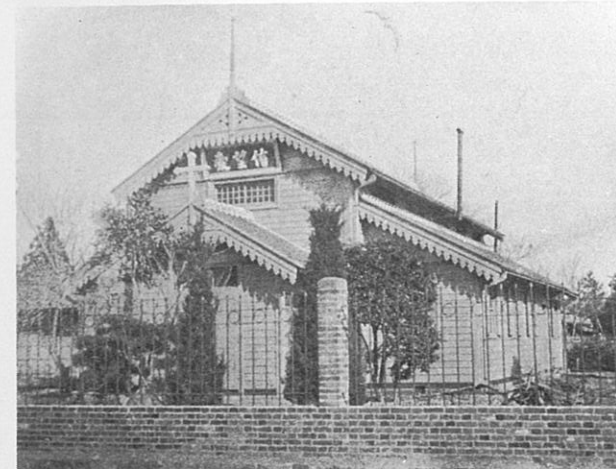
〈註〉①仙台電灯会社として設立されたもので、現在は東北電力所管となっている。②棟札によると明治41年10月15日に上棟式が行なわれたと記されている。

仙台東六番丁教会

宮町一丁目4-1



全景（現状）



全景（修理前：明治年間撮影）



二階部分



内部

明治30年に建造された現存する仙台最古の教会建築。

建物の構造は瓦葺切妻造の木造平屋一部二階建て、ネーブ（本屋）とアイル（廂）から成っており、アイルにある上下窓には両開きの襦戸が付く。外壁は当初羽目板張であったが昭和29年にモルタル塗に改造され、旧来の面影を失ったが内部は当初のままで、床板敷のネーブと畳敷のアイルそして後方には二階が設けられ、正面には建築当時のものと思われるステンドグラスが設けてある。

しかしながら、建物の老朽化が著しく危険な状態となったため、昭和54年度末をもって取壊されることになった。

東北大学医学部付属病院

星陵町 3 - 26

明治44年、仙台医学専門学校の実習病院として建築されたもので、現在は本館及び東端の別棟を除き大部分が老朽化により解体され、残っている本館も昭和54年度中に解体される予定である。

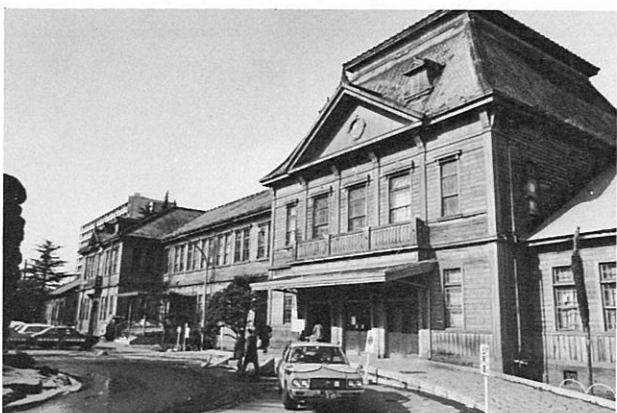
本館の構造は木造二階建、スレート瓦葺で中央はマンサード・ルーフ式の屋根^①を有し、幅広い玄関がややつき出した形になっている。一部改修されているが、近世ルネサンス式の壮麗な洋風建築として、また明治末から大正に移る過渡的スタイルの好例として貴重な存在であるだけにおしまれる。

<註>

①上部の傾斜がゆるく、下部の傾斜が急で、二段になった屋根形式。



全景（遠景）



全景（近景）



中央玄関



中央部（マンサード・ルーフ式の屋根）

伊達屋敷

一本杉町 1 - 2

（聖ウルスラ学院構内）

外装



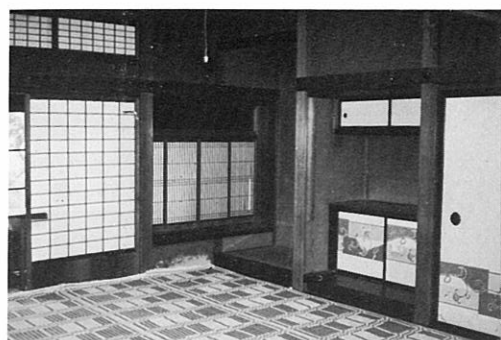
玄関（左正面玄関、右脇玄関）

明治30年代後半、元仙台藩着座伊具丸森三千石の佐々氏の下屋敷を伊達家が買収し、邸宅として建造したもので、武家屋敷、それも旧大名層の屋敷の系譜を有する明治時代の華族邸宅の典型である。

建物の構造はのべ建築面積769.95㎡（うち一階部分684.69㎡、二階部分85.25㎡）の瓦葺木造平屋一部二階建の住宅建築である。

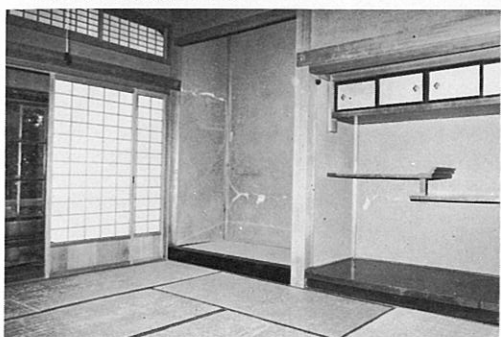
表玄関・脇玄関・広間（遠待）、大書院・小書院（客座敷^①）・居間書院（居間）・奥座敷・厨房の主要建築から成り、これに女中部屋・浴室・便所等が付く。

ここで注目すべきことは、住宅建築では利用面からの便宜上、改築されて残ることが少ない厨房・浴室・便所等が建築当初に近い形で残っていること、また武家屋敷、それも大名



内部(大書院床の間)

内部(小書院床の間)

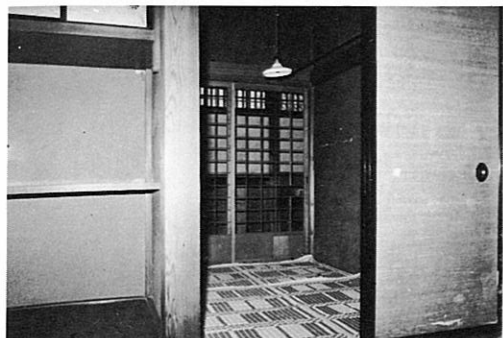


正面玄関

層の屋敷にしか見る事の出来ない武者隠し、座敷牢が残っていることである。これらのことは、仙台市内にも江戸時代の建造と思われる武家屋敷の遺構が数例あるとはいっても、このように多少の改造はあるものの当時のものに近い形で現在まで残っている例は珍らしく、武家屋敷、特に藩政時代の大名屋敷の構造を窺うにはもってこいの具体例といってよい。さらに、建築としてのみならず、内向き関係の諸施設^③をも配した華族層しいては明治以前の上流武士階級の生活資料的面的での価値も高い。

<註>

①当時御殿と称し、昭和22年夏、天皇の御泊所となった。



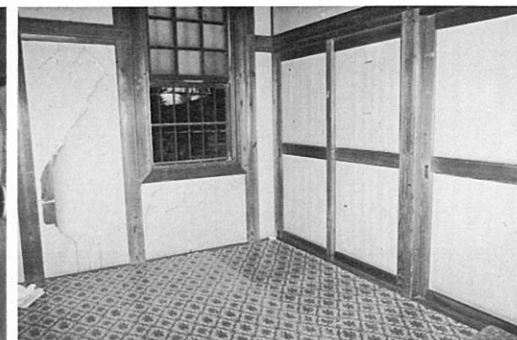
内部(小書院武者隠し)

②安藤堯邸(宮町二丁目所在)など。

③たとえば、主人及び正客のみが出入りを許される表玄関と、その他の者、つまり家人及び使用人が出入する脇玄関とに分れていたり、廊下が二段になっていて、高い方を主人が、低い方を家人及び使用人が利用するようになっていることなどがあげられる。



内部(廊下; 右が主人の歩く廊下・左が使用人等の歩く廊下)



内部 (座敷牢)

伊達屋敷平面見取図

- 1 表 玄 関
- 2 脇 玄 関
- 3 広 間
- 4 居間書院
- 5 大 書 院
- 6 奥 座 敷
- 7 小 書 院 (客座敷)
- 8 廊 下
- 9 脇 廊 下
- 10 武者隠し
- 11 座 敷 牢
- 12 女中部屋
- 13 厨 房
- 14 浴 室
- 15 便 所



二 階

その他の主な古建築



二十人町教会 (明治42年)



宮城学院旧2号校舎 (大正7年)



知事公館(旧第二師団長宿舎)(大正年間)



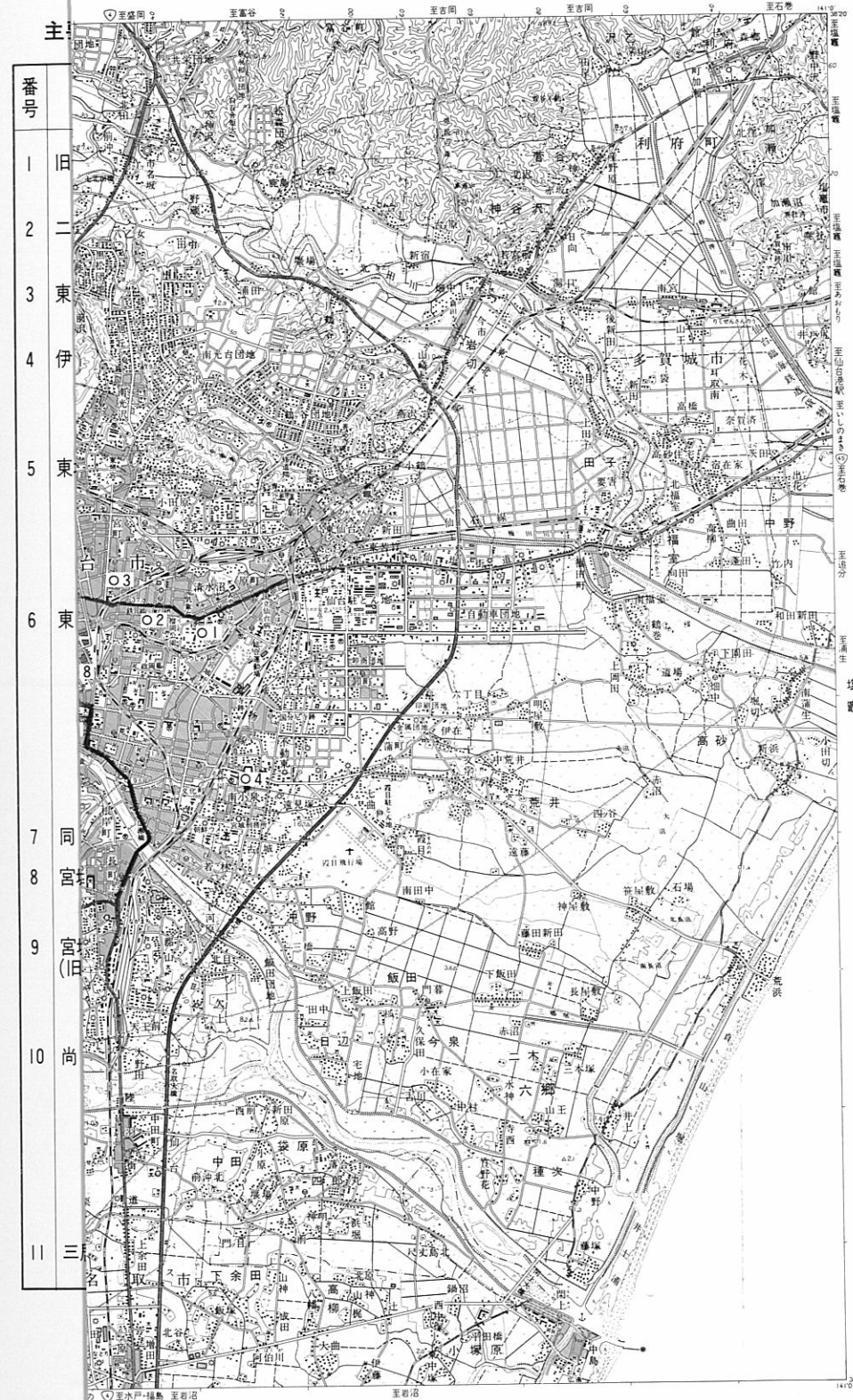
東北学院大学本館 (大正15年)



尚絅女学院講堂 (大正6年)



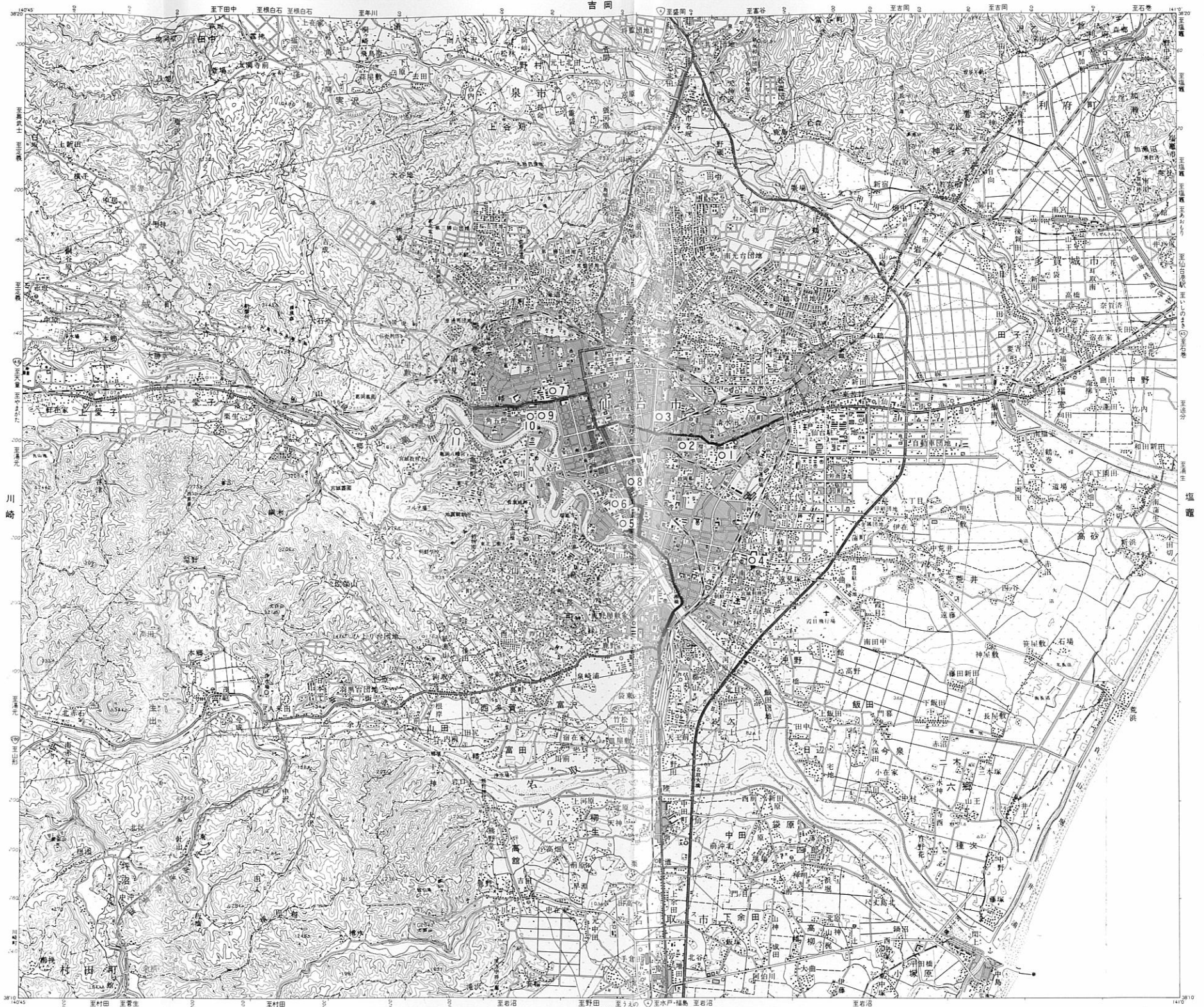
同左 インディアナビル (昭和4年)



この地図は、国土地理院発行の5万分の1の地形図(仙台)を使用したものである。

主要古建築一覧表（付地図）

番号	名称	所在地	建築年代（備考）
1	旧歩兵第四連隊兵舎	五輪一丁目 3-7	明治7年
2	二十人町教会	二十人町	明治42年
3	東六番丁教会	東六番丁	明治29年
4	伊達屋敷	一本杉町 1-2	不詳 (明治30年代後半)
5	東北学院大学	土樋一丁目 3-1	シップル館 明治21年 本館 大正15年 礼拝堂 昭和7年
6	東北大学	片平二丁目 1-1	学生診療所 大正13年 旧図書館 大正15年 旧生物学本館 大正13年 金属材料研究所 大正8年
7	同付属病院	星陵町 3-26	明治44年
8	宮城学院大学	中央四丁目 6-1	旧2号校舎 大正7年
9	宮城県知事公館 (旧第二師団長公舎)	広瀬町 5-43	不詳 (大正年間)
10	尚綱女学院	広瀬町 9-1	エラ・オ・パトリック ホーム 明治29年 講堂(礼拝堂) 大正6年 インディアナビル 昭和4年
11	三居沢発電所	荒巻字 三居沢	明治42年



この地図は、国土地理院発行の5万分の1の地形図(仙台)を使用したものである。

仙台市文化財パンフレット刊行目録

- 第 1 集 仙台のあゆみと文化財
- 第 2 集 埋もれた仙台の歴史
- 第 3 集 仙台市の古建築 I (明治以前)
- 第 4 集 仙台市の古建築 II (明治以降)

参 考 文 献

- 「仙台の文化財」 正編・続編 (仙台市教育委員会編)
- 「明治の洋風建築」 (小倉 強 著)
- 佐藤 巧 東北大学教授(仙台市文化財保護委員)の伊達屋敷調査所見

仙台市文化財パンフレット第四集

仙 台 市 の 古 建 築 II

(明治以降)

昭和55年 3月31日 初版発行
昭和60年 5月31日 三版発行

編集・発行 仙 台 市 教 育 委 員 会
仙台市国分町三丁目7-1

印 刷 (株) 東 北 プ リ ン ト
仙台市立町24-24
TEL (63) 1166代
